

静岡県文化施設指定管理業務に関する外部評価委員会の概要及び評価結果（期間評価）

令和3年8月

静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課

1 施設名及び指定管理者名

静岡県コンベンションアーツセンター 公益財団法人静岡県文化財団

2 指定期間

平成29年4月1日～令和4年3月31日（5年間）

3 指定管理業務評価の流れ

- (1) 平成29年度から令和2年度の指定管理業務について、指定管理者が提案内容をどの程度実施したかを明確にするため、指定管理者による自己評価を行った。
- (2) 県では、自己評価と事業実績の内容確認を行うとともに、必要な事項について指定管理者へのヒアリングを行い、県としての評価を行った。
- (3) 自己評価と県評価の内容を客観的に評価して、今後の指定管理業務の改善につなげるため、外部委員からなる評価委員会を開催し、指定管理者及び県へのヒアリングをもとに評価を行った。（開催日 令和3年8月23日）

【外部委員】

氏名	職名
岩崎 邦彦	静岡県立大学 経営情報学部 教授
江成 博行	静岡フィルハーモニー管弦楽団 理事長
木ノ下 智恵子	大阪大学 共創機構 産学官連携オフィス准教授
木村 玲美	浜松総務部有限会社 代表取締役
坪池 栄子	株式会社文化科学研究所 研究プロデューサー

4 評価結果

(1) 外部委員による評価

ア 総合評価（5段階評価）

平成29年度から令和2年度の期間実績は、評価点「4.1」、「よく実施した」と判断した。

【評価点】

1. 0～1. 4	1. 5～2. 4	2. 5～3. 4	3. 5～4. 4	4. 5～5. 0
実施しなかった	不十分な実施だった	概ね実施した	よく実施した	大変よく実施した

イ 評価に関する意見

- ウィズコロナによる環境変化により、量を集める時代が終焉する可能性がある。顧客も、量（混雑、密）を避ける時代になる。それに伴い、目標値も、従来の「入館者数」「入場者数」「鑑賞者数」といった数の指標を、時代に合わせた指標に変えていく必要がある。
- 文化施設の拠点として、全国大会、世界大会などを誘致することで、更なる文化交流を産み出してほしい。
- 工事に伴う全館休館やコロナ禍による影響が全体的に見られるが、そのような条件下においても、ネット予約の改善やオンラインプログラムなどの整備により、会員増加に結びつくなど、努力とその結果は評価できる。
- 文化支援事業に関する情報発信力は継続的に努力されているものの、まだ伸び代がある。
- 広報や企画事業、県立施設としての広域展開など、当初より戦略的に実施できるようになった。

(2) 県評価の概要

ア 総 評

(公財) 静岡県文化財団は、指定管理業務を適正に実施したものと認められる。

イ 数値目標の達成状況

項 目	目 標	実 績				平 均	
		H29	H30	R 元	R2	H29～R2	H29～R元
入館者数	700,000 人	624,442 人	590,327 人	635,805 人	39,417 人	472,498 人	616,858 人
企画事業入場者数	130,000 人	138,134 人	133,956 人	122,851 人	117,832 人 (web 参加者含)	128,193 人	131,647 人
企画事業子ども学生鑑賞者数	5,500 人	6,424 人	8,050 人	7,252 人	305 人	5,508 人	7,242 人
企画事業における満足度	90.0%	94.1%	93.9%	95.0%	96.8%	95.0%	94.3%
貸館利用者の不満足度(スタッフ対応)	1%未満	0.04%	0.11%	0.04%	0.01%	0.05%	0.06%
企画事業における県民参加者数	2,500 人	2,368 人	2,302 人	2,642 人	402 人	1,929 人	2,437 人
コンベンションの開催件数	45 件	40 件	40 件	47 件	8 件	34 件	42 件
友の会個人会員数	10,000 人	7,916 件	10,096 件	11,322 人	11,680 人	10,254 人	—
友の会法人会員数等サポート企業数	100 社	150 社	137 社	134 社	28 社	112 社	140 社
サポーター数	180 人	165 人	175 人	171 人	154 人	166 人	170 人
インターンシップ等受入人数	25 人	19 人	27 人	25 人	8 人	20 人	24 人
施設稼働率	84.0%	82.6%	84.6%	78.2%	31.4%	69.2%	81.8%
催事開催支援サービス取り扱い件数	1,800 件	2,039 件	2,615 件	2,173 件	189 件	1,754 件	2,276 件
施設管理瑕疵に起因する事故	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

〔全 般〕

- ・目標の達成状況は、9割以上の達成率であった。
- ・指定管理期間の初年度から目標を達成し続けた項目が6つあることなど、目標を意識した取り組みがなされた。

ウ 実施業務別評価

(1) グランシップ企画事業

- ・新規催事を毎年取り入れるなどの工夫により、安定した来場者数を確保し、さらに高い満足度を維持することができた。
- ・子どもから鑑賞・参加できる伝統芸能の公演に継続的に取り組むなど、県立文化施設として県域を対象とした催事に取り組んだ。
- ・チケット購入の利便性向上など、催事以外の部分でも鑑賞者獲得努力がなされた。

(2) 文化支援

- ・ふじのくに文化情報センターで蓄積されたノウハウが、第4期文化振興基本計画の目標であったアーツカウンシルの設立の実現に大きく寄与した。
- ・毎年、適時適切な研修を主催することで、本県の文化施設の人材育成を実施し、文化振興の水準向上に寄与した。また、研修の実施を通じて、各文化施設とのネットワークの構築にも繋がった。

(3) 貸館業務

- ・WEB予約の利便性改善や手続きの簡素化などの顧客サービスもあり、高い稼働率を維持することができた。

(4) 東京オリンピックパラリンピック競技大会を踏まえた取り組み

- ・文化プログラムの本来の趣旨に貢献する参加型事業が、財団のこれまでのノウハウや創意工夫により実施され、非常に高い評価を得た。

(5) 維持管理業務

- ・利用者目線で施設の維持管理が行われた。
- ・施設の特性を理解した上での、きめ細やかな省エネ努力が行われた。

(6) その他の運営に関する業務

- ・文化振興の推進の面でも収益確保の面でも重要な顧客であるグランシップ友の会の会員は、目標値以上に増加させることができた。

(7) 運営体制及び組織

- ・県がグランシップに求める企画事業や貸館事業における専門知識をもった優秀な人材が、グ

ランシップに従事し続けてもらえる雇用体制となっている。